

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」プレミアムクラス 第1回（7/9実施）レポート

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」は、令和2年度にプレ開校、令和3年度に本格開校し、多くの受講生と共に地域おこしについて学びを深めてきました。そして、3年目を迎えた今年度は、「より深く、地域課題解決に繋がるような内容にも取り組みたい」といった受講生の声に応え、「プレミアムクラス」を新設。当日は、高知市内外から23名が集結しました。



講師には、一般財団法人地域活性化センター 新事業企画室長 吉弘拓生氏を迎え、より実践的に、それぞれが「やりたい」を叶えるまでの過程を学び、実現を目指します。



第1回「社会課題を自ら解決するきっかけを作ろう」では、冒頭に講師の吉弘氏から教室のルール説明を受け、受講生の士気も徐々に高まってきました。一人ひとりの意欲・興味をもとに、各々がテーマ・ゴールを設定します。次に4～5名程度のグループごとに自己紹介の時間に移りました。自身の経験を語る方や地域の課題について言及する方など、その紹介方法もさまざまです。この時点で、教室は既に活気づいた状態です。



その後は、各々が地域で実践してみたい内容を、事前に配布された白紙へ記入しました。それぞれの地域、職場にどんな課題があるのか。その課題をどう価値に変え、解決していくのか。一見難しい問いですが、今回は一人ではありません。グループのメンバーからアドバイスを受け、質問に答えることで課題がより鮮明に浮かび上がっていきます。また、吉弘氏からは、時代を生き抜くヒントが

随所に与えられ、そのエッセンスを拾い上げながら、自分が考える課題と結び付けていきます。



吉弘氏の話の中で印象的だった点は、以下の2つ。

1つ目は、時代が「土の時代」から「風の時代」に変換しているという内容です。コロナ禍を経て、我慢や根性がまかり通っていた「土の時代」から、人と人が助け合い情報をシェアする「風の時代」に変わってきているそうです。

| 土の時代 | 風の時代 |
|----------|--------------|
| お金、物質 | 情報、体験、人脈 |
| 所有する | シェアする |
| 固定 | 移動、流動 |
| 出る杭は打たれる | 個性を出さないと埋もれる |
| 組織、会社 | 個人、フリーランス |
| 縦社会 | 横のつながり |
| 自分で頑張る | 人と助け合う |

カタチあるものを重んじる物質主義。今までの実績を信用し、組織を大切にする時代から、情報や知識などのカタチのないものに人々は関心を持つようになってきているようです。「個々の創造力や柔軟な思考性を大切にしたい」と吉弘氏が訴えます。

2つ目は、「計画された偶発性理論」の話です。個人のキャリアの8割は予想のしない偶発的なことによって決定される。「その偶発的なことを計画的に設計してキャリアアップに繋げていきましょう」と教室全体に呼びかけます。未知の領域に踏み込むとき、どうしてもリスクを考えてしまう、しかし、新たなステップに行くには、必ずリスクが伴うもの。リスクを恐れず、冒険心を持ってアクションを起こすことが大切です。



今回、地域に対する講師の想いと受講生の地域を変えたいという熱気が交錯し、非常に濃厚な時間となりました。グループごとのディスカッションも多く、「伝える」ではなく「伝わる」を意識した意見交換が出来ました。

受講生たちは、これから自分の問題意識や叶えたいことを突き詰め、深めていきます。各受講生が紙に書いた「自分の『やりたい』」は、どのように実現していくのでしょうか。第2回の授業も楽しみです。

